

2015年10月25日 実施

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会

平成27年度 第7回 会計実務検定試験

管 理 会 計

注 意 事 項

1. 監督者の指示があるまで、問題は開いてはいけません。
2. 解答用紙の指定欄に試験場校名・受験番号を記入しなさい。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 試験は「始め」の合図で開始し、「止め」の合図があったら解答の記入を中止し、ただちに問題を閉じなさい。
5. 制限時間は90分です。

【1】 次の文章の（ 1 ）から（ 6 ）の中に入るもっとも適切な語句を〔解答群〕の中から選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

1. 管理会計の基本的な目的は、経営者の（ 1 ）に有用な情報を提供することにある。経営者の職務である経営管理活動は、計画の立案にはじまり、この計画の達成をめざして各種の業務活動を（ 2 ）するという二つの大きなプロセスにわかれる。
2. 最適セールス・ミックスの決定において、複数の制約条件を検討しなければならない場面では、（ 3 ）による検討がおこなわれる場合が多い。この手法では、1次式で表現されるすべての制約条件を満たしたうえで、利益を（ 4 ）する経営資源の最適な組み合わせを計算する。
3. （ 5 ）の目的は、設備の取得前に、その取得から使用・廃棄にいたるまでの総原価を正確に予測し、それが最小となる代替案を選択することである。この手法においてコストは、イニシャル・コストとランニング・コストに分類されるが、両者には（ 6 ）関係があることが多い。

〔解答群〕

ア. 給与計算	イ. 正味現在価値法	ウ. 統制	エ. 比例	オ. 最小化
カ. 意思決定	キ. 最大化	ク. 分散	ケ. 活動基準原価管理	
コ. 線形計画法	サ. トレードオフ	シ. ライフサイクル・コストニング		

【2】 次の各問に答えなさい。ただし、計算上端数が生じた場合については、計算途中で四捨五入せず、最終の解答の段階で四捨五入すること。

問1 甲・乙・丙の3種類の製品を製造・販売している全商工業は、活動基準原価計算（ABC）を導入し、製造間接費を5つのコストプールに集計した。下記の資料にもとづいて、(1)製品甲の段取作業費配賦額 (2)製品乙の製造間接費配賦額 (3)製品丙の製造原価の金額を求めなさい。なお、直接労務費の予定賃率は、320円/時間とする。

〈資料〉

1. X1年の製造間接費予算

コストプール	年間予算	コストドライバー	年間予定水準
段取作業費	15,000千円	製造指図書数	1,000件
運搬作業費	2,700千円	材料移動回数	900回
品質管理費	4,200千円	検査回数	700回
工程補助費	10,500千円	直接作業時間	35,000時間
設備保全費	4,250千円	機械運転時間	17,000時間

2. X1年4月の生産実績

	製品甲	製品乙	製品丙
生産数量	450個	1,050個	700個
直接材料費	1,070千円	2,780千円	2,400千円
機械運転時間	700時間	3,500時間	1,400時間
直接作業時間	1,400時間	4,200時間	2,800時間
材料移動回数	50回	140回	70回
製造指図書数	15件	45件	30件
検査回数	10回	30回	20回

問2 下記の品質原価の各費目のうち、(1)予防原価に該当するものの番号を3つ抜き出さなさい。
(2)内部失敗原価に該当するものの総額を求めなさい。

- | | | | |
|-----------------|----------|-------------|----------|
| ① 品質保証教育訓練費 | 280,000円 | ② 購入材料受入検査費 | 92,000円 |
| ③ 品質検査不合格品の手直し費 | 60,000円 | ④ 返品廃棄処分費 | 42,000円 |
| ⑤ 仕損費 | 340,000円 | ⑥ 製造工程改善費 | 550,000円 |
| ⑦ クレーム対応費 | 75,000円 | ⑧ 他社製品品質調査費 | 180,000円 |
| ⑨ 各工程中間検査費 | 120,000円 | ⑩ 製品設計改善費 | 360,000円 |
| ⑪ 外部機関による保証費用 | 87,000円 | ⑫ 仕損品の再検査費 | 32,000円 |

問3 全商工業は、製品Xと製品Yの数量を3対2の割合で製造・販売している。下記の資料にもとづいて、(1)製品Xの販売数量が6,000個、製品Yの販売数量が4,000個であった場合の予定損益計算書を完成しなさい。(2)損益分岐点における売上高およびその際の製品Xの販売数量を求めなさい。

〈資 料〉

1. 製品1個あたりの予定販売価格および予定変動製造・販売費

	<u>製品X</u>	<u>製品Y</u>
販売価格	28,000円	23,000円
変動費		
直接材料費	11,000円	10,000円
加工費	4,500円	4,300円
販売費	2,700円	1,800円

2. 年間固定費予算

加工費	42,000,000円
販売費及び一般管理費	27,120,000円

【3】 次の資料にもとづいて、下記の各問に答えなさい。

問1 予算運算表（一部）の（ a ）～（ e ）に入る金額を答えなさい。

問2 見積損益計算書を完成しなさい。

〈資料〉

1. 売上高予算 製品A：販売数量 15,000個 販売単価 530円
製品B：販売数量 25,000個 販売単価 250円

2. 製造原価予算

製品別標準原価カード

（単位：円）

費目	製品A			製品B		
	数量または時間	標準単価	標準原価	数量または時間	標準単価	標準原価
直接材料費	2個	85	170	1個	56	56
直接労務費	3時間	40	120	2時間	30	60
製造間接費	3時間	20	60	2時間	12	24
標準原価			350			140

A製品製造数量 14,000個

B製品製造数量 24,000個

期首製品棚卸高 A製品 525,000円 B製品 350,000円

期末製品棚卸高 A製品 175,000円 B製品 210,000円

3. 財務予算

(1) 現金収支予算

期首手元有高	3,780,000円		
現金収入：現金売上	1,150,000円	受取手形の回収	4,725,000円
売掛金の回収	8,110,000円		
現金支出：支払手形の決済	1,810,000円	買掛金の支払	1,835,000円
材料仕入	169,000円	直接労務費	3,120,000円
製造間接費	941,000円	販売費	2,025,000円
一般管理費	1,498,000円	工具・器具・備品	820,000円
支払利息	63,000円		

(2) 信用予算

受取手形：期首有高	290,000円	期中売上による増加	4,750,000円
現金による満期回収	4,725,000円		
売掛金：期首有高	4,300,000円	期中売上による増加	8,300,000円
現金による回収	8,110,000円		

4. その他のデータ

材料・仕入債務 (単位：円)

摘 要	支払手形	買掛金
期首有高	150,000	360,000
期中の材料仕入による増加	1,830,000	1,815,000
現金による満期支払い	1,810,000	1,835,000
期末有高	170,000	340,000

減価償却費明細 (単位：円)

資産の種類	製造経費	一般管理費	合 計
建 物	254,000	202,000	456,000
機 械 設 備	152,000		152,000
工具・器具・備品	69,000	50,000	119,000
	475,000	252,000	727,000

予 算 運 算 表 (一部)

(単位：円)

勘 定 科 目	試 算 表		予 算		仕 掛 品	
現 金 預 金	3,780,000		(a)	()		
受 取 手 形	290,000		()	()		
売 掛 金	4,300,000		()	()		
製 品	875,000					
仕 掛 品	0				0	0
材 料	705,000		(b)	()		
支 払 手 形		150,000	()	()		
買 掛 金		360,000	()	()		
長 期 借 入 金		2,500,000				
減 価 償 却 累 計 額		8,220,000		(c)		
売 上				()		
売 上 原 価						
直 接 材 料 費			()		()	
直 接 労 務 費			(d)		()	
製 造 間 接 費			()		()	
販 売 費			()			
一 般 管 理 費			()			
製 品 製 造 原 価						(e)
支 払 利 息			()			
当 期 純 利 益						
	29,250,000	29,250,000				

【4】 全商工業の次の資料から、直接標準原価計算による月次損益計算書を完成しなさい。なお、不利差異の場合には、金額の前に △ を付けること。

〈資料〉

1. 生産データ

月初仕掛品	700個 (1/2)
当月投入	<u>6,400個</u>
合計	7,100個
月末仕掛品	<u>600個</u> (2/3)
完成品	<u>6,500個</u>
月初製品棚卸高	500個
月末製品棚卸高	750個

※材料はすべて工程の始点で投入し、() 内は加工進捗度をあらわしている。

2. 製品1個あたりの標準変動製造原価

直接材料費	$470\text{円/kg} \times 4\text{kg} = 1,880\text{円}$
直接労務費	$900\text{円/時間} \times 3\text{時間} = 2,700\text{円}$
製造間接費	$720\text{円/時間} \times 3\text{時間} = 2,160\text{円}$

3. 製造間接費予算(公式法変動予算)

変動費率 720円/時間 固定費(月間) 7,980,000円

※操業度は、直接作業時間によって把握している。

4. 販売費及び一般管理費予算

変動販売費 400円/個
固定販売費及び一般管理費(月間) 2,800,000円

5. 当月の実績データ

当月販売数量	6,250個
直接材料費	$460\text{円/kg} \times 26,300\text{kg} = 12,098,000\text{円}$
直接労務費	$920\text{円/時間} \times 20,400\text{時間} = 18,768,000\text{円}$
製造間接費	
変動製造間接費	13,872,000円
固定製造間接費	8,240,000円
販売費及び一般管理費	
変動販売費	2,625,000円
固定販売費及び一般管理費	2,660,000円

【5】 次の資料にもとづいて、下記の各問に答えなさい。ただし、解答上、金額は「円」未満を、パーセントは「%」未満第2位を、回収期間は「月」未満第1位を四捨五入すること。

問1 次の計算式の にあてはまる項目を勘定科目で答えなさい。

設備投資によって増加する税引後キャッシュ・フロー =

(会計上の) 税引後当期純利益 +

問2 第1年度の税引後キャッシュ・フローおよび今後5年間の税引後キャッシュ・フロー合計を答えなさい。

問3 税引後キャッシュ・フロー累計額を用いた場合の回収期間を答えなさい。

問4 会計的投資利益率を答えなさい。なお、計算においては、投資額の総額を分母とすること。

問5 資本コストが8%である場合、本投資案を採用すべきか否かを、正味現在価値法によって判断しなさい。なお、割引計算による端数は四捨五入せず、最終の解答の段階で四捨五入すること。

〈資料〉

- 全商工業は、耐用年数5年の設備8,600,000円への設備投資案を検討している。
- この投資案によって増加する今後5年間の税引前キャッシュ・フローを計算するための現金収入収益・現金支出費用の予想は以下のとおりである。なお、税引前当期純利益は、現金収入収益・現金支出費用および減価償却費から計算される。

(単位：円)

	現金収入収益	現金支出費用
第1年度	3,800,000	1,600,000
第2年度	4,200,000	1,800,000
第3年度	4,800,000	2,000,000
第4年度	5,500,000	2,800,000
第5年度	4,500,000	2,200,000

- 現価係数表(割引計算において使用する。)

年	1	2	3	4	5
8%の現価係数	0.9259	0.8573	0.7938	0.7350	0.6806

- 残存価額を零(0)として定額法で減価償却をおこなう。
- 法人税等の税率は40%とする。

(平成27年10月25日実施)

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会

平成27年度 (第7回) 会計実務検定試験 管理会計

解 答 用 紙

【1】

1	2	3	4	5	6

【2】

問1

(1) 製品甲の段取作業費配賦額		千円
(2) 製品乙の製造間接費配賦額		千円
(3) 製品丙の製造原価		千円

問2

(1) 予防原価に該当するもの			
(2) 内部失敗原価の総額			円

問3 (1)

予 定 損 益 計 算 書 (単位:円)

I 売上高	()
II 変動費	()
貢献利益	()
III 固定費	69,120,000
営業利益	()

(2) 損益分岐点売上高

	円
--	---

製品Xの販売数量

	個
--	---

試験場校名	受験番号	【1】の得点	【2】の得点	【3】の得点	【4】の得点	【5】の得点	得点合計

【3】

問1

a	円	b	円	c	円
d	円	e	円		

問2

見積損益計算書			(単位：円)
製 品	製品A	製品B	合 計
売 上 高	()	()	()
売 上 原 価	()	()	()
売上総利益	()	()	()
販 売 費			()
一般管理費			()
支 払 利 息			()
当期純利益			()

【4】

月次損益計算書（直接標準原価計算）			(単位：円)
I 売 上 高			62,500,000
II 標準変動売上原価			
月初製品棚卸高	()		
当月製品製造原価	()		
合 計	()		
月末製品棚卸高	()	()	
標準変動製造マージン			()
III 標準変動販売費			()
標準貢献利益			()
IV 変動原価差異			
材料消費価格差異	()		
材料消費数量差異	()		
賃 率 差 異	()		
作 業 時 間 差 異	()		
()	()		
能 率 差 異	()		
変動販売費差異	()	()	
実際貢献利益			()
V 固 定 費			
固定製造間接費予算額	()		
固定販売費及び一般管理費予算額	()	()	
()			()
VI 固定原価差異			
固定製造間接費差異	()		
固定販売費及び一般管理費差異	()	()	
営 業 利 益			()

※不利差異の場合は、金額の前に △ を付けること。

【5】

問 1	計算式にあてはまる勘定科目	
問 2	第 1 年度の税引後キャッシュ・フロー	円
	今後 5 年間の税引後キャッシュ・フロー合計	円
問 3	回収期間	年 ヶ月
問 4	会計的投資利益率	%
問 5	正味現在価値が	円 となり、

(正・負) の値を示しているので本投資案を採用 (すべきである・すべきでない)。

※解答にあたっては、カッコ内のいずれかを○で囲みなさい。

【5】の得点